

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の確実な定着を目指すための学習指導の工夫
- 思考力・表現力を伸ばす授業づくり

千代小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 岡田 陽和	委員 総括 下窪耕司 低学年推進委員 富田真紀 総括補佐 植田宏和 高学年推進委員 井上嘉隆 研修主任 大場智絵
------------------	---

校長

下窪 耕司

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○積極的に読書をし、知識の習得に意欲的な姿勢が見られる。 ●習得したことを実際に生活の中で活かせていない。	・読み書き、計算といった基礎・基本の定着を図る。 ・学習したことを生活に結び付けることができる。	・AIドリルを活用して、個人差を少なくするようにする。 ・家庭と連携し、基本的な生活習慣の定着を目指す。	・それぞれの教科における知識等の習得により徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・繰り返し実施しているが定着しない。 ・AIドリルは理科や社会などの暗記教科には効果があると感じた。	・前の学年の学習内容を振り返る時間が必要。 ・家庭との連携で家庭学習が確実に進めるようにする。

【各校の取組状況の把握について】

教員の学期ごとのチェックシートや授業研究会等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読書に興味をもつ児童が多い。 ●自分の思っていることを言葉で表現して伝えることができない。 ●意味を理解せずに言葉を使っている。	・理由をつけて自分の考えを伝えることができる。 ・友達や教師の話聞いて、自分の考えを表現することができる。	・朝会や集会の後、振り返りの場を設ける。 ・辞書を活用するなど、対話的な活動を行うことにより語彙力を高める。 ・発表の仕方を提示し、発表をすることへの抵抗感を減らす。	・自力解決の時間をしっかり確保する。 ・児童が表現したいことを教師がサポートする。	・語彙に興味を持つ児童は少ない。 ・型があると発表することはできるが、自分で考えて発表することは難しい。	・辞書とタブレットの併用が大切。 ・友達の話や意見をよく聞き、自分の考えを言う機会を設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、落ち着いて取り組むことができる。 ●間違いを恐れ、自分から積極的に行動をせず指示を待つ児童が多い。	・与えられた課題だけでなく、自ら進んで学習することができる。 ・自分の考えを伝えることができる。	・グループ活動を積極的に取り入れ、少人数の中で自分の考えを伝える場を設ける。 ・ICTを効果的に活用することで、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。	・児童ができたときには大げさに褒める。	・「分かる」「おもしろい」という達成感があれば、意欲に繋がる。 ・児童に選択肢を与えると、意欲が感じられた。	・45分間をメリハリをつけて有効活用する。 ・できたことを褒めることでやる気に繋がる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

